

県立多治見病院 緩和ケアチーム通信

発行：県立多治見病院緩和ケアチーム 2018年11月号 vol.92
文責：櫻井 由美子・大蔵 真子 編集：櫻田 亜矢子

こんにちは。緩和ケアチームの櫻井です。

最近、私の中でのアニマルセラピーを実感した出来事がありました。娘がトイプードルの「エルモ」ちゃんを連れて帰省した時のことです。久々に癒された時間でした。そもそも「癒し」という言葉を何気なく良く使うのですが、私の感じた癒された時間ってどんな時間だったのか…。デジタル大辞泉によると、『癒しとは、肉体の疲れ、精神の悩み、苦しみを何かに頼って解消したりやわらげたりすること』となっています。確かに子犬の「エルモ」ちゃんが来ていた我が家は、活気があり、優しい笑顔がみられ、日々の疲れを忘れ、あれこれ思い悩むことなく過ぎていきました。

これまで、子供が小さい頃から幾度となく犬を飼いたいと言われていました。なかなか踏ん切りがつかなかったのですが、社会人になった娘が「エルモ」と帰ってくることになり、「癒しの時間」をこれからも持てそうです。とてもワクワクとした毎日を送っています。私にとってのアニマルセラピーですね！



こんにちは、ソーシャルワーカーの大蔵です。もう今年も終わりますね、早いものですね。個人的に、レポートや試験、研修会の主催等々何かに追われて過ごした1年でした。やらなければならない事が多いと本当に疲れますね。そんな時、周りの方から「何かできることがあったら言ってね」の一言に助けられました。そんな関係を持たた事にも感謝です。振り返って、相談員として患者さんや家族の方にそのような存在になっているのかと考える機会にもなりました。がん診療連携拠点病院の当院には、がん相談支援センターがあります。看護師とソーシャルワーカーが通院、入院の患者さん、家族だけでなく、この地域の相談窓口として活動しています。周知徹底が不十分なところもありますが、何かできることがあったら・・・との思いでいますので、ぜひご利用ください。



第5回

緩和ケア勉強会のお知らせ

日時：12月13日(木) 18:00~19:30

場所：中央診療棟3階講堂

内容：「中津川での緩和ケア 地域連携の実際」

